

がんばろう 南三陸町

復興第 45 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

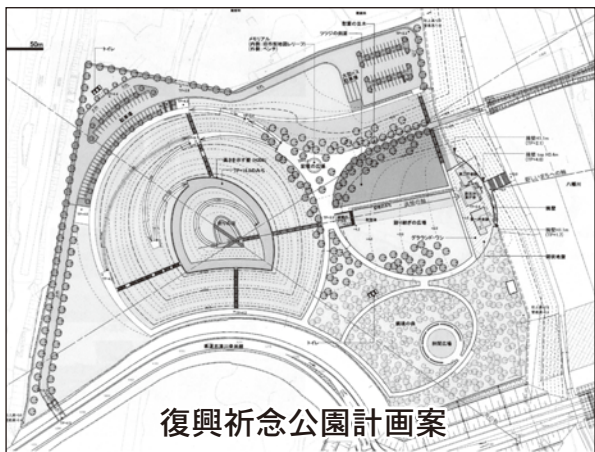
企画・編集 千葉伸孝

志津川地区町づくり協議会「輝くみらいづくり部会」参加報告①

南三陸町復興祈念公園基本設計(案)の協議

2015 年 11 月 19 日 / ポータルセンター

南三陸町復興市街地整備課(設計受託:UR 都市機構)から提出された資料について、第 1 回目の「祈念公園設計」の話し合いが持たれた。



復興祈念公園計画案

テーブルには計画模型と計画図面が示され、UR 都市機構の職員のスライド・動画での説明があり、1 のテーマとコンセプト 1 から 8 の持続可能な維持管理までを真剣に協議した。初めての大規模な市街地の八幡川の西側に位置する、南三陸町の「復興祈念公園」の計画案は、総ての配置・機能・施設など内容に渡り、

説明のあとで委員から質問があったが配られた資料の熟読や内容確認の為に次週開催で再度協議する事とした。

(記念公園基本設計(案)資料から)

1. テーマとして追悼・畏敬・継承・祈念、そして未来を想像する場とした。

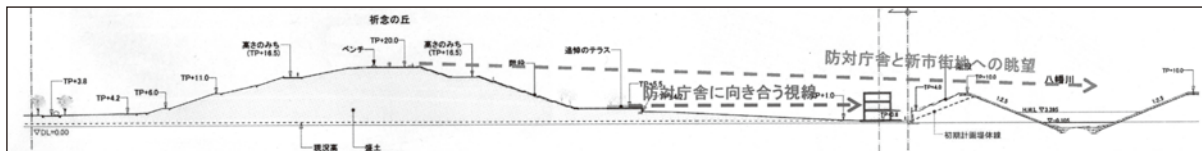
2. デザインコンセプト①として記憶に残る造形と空間体験、②として豊かな回遊性と多様な視点で記念公園を整備した。③に永続性と移ろいの調和として、季節や時と共に移ろう要素を取り入れ、築山斜面の色・サクラ並木・ツツジ等、復興と共に生長する鎮魂の森とした。

復興記念公園には、震災遺構としての「防災庁舎」を中心とした「語り継ぎの広場」を整備し、追悼のテラスから「追悼の軸」、八幡川の「人道橋(旧中橋)」から追悼のテラスまではサクラ並木を通り、「記憶のみち」を整備する。記憶の広場へと進むこのエリアをメモリアルゾーンとした。

築山の整備は災害発生時、遅れた住民・観光客の津波避難場所として整備され、700 坪の土地に 20m の高さで、80 坪(250 m²)の避難場を頂上に造る。4ヶ所の階段とラセン状の坂の途中には、今回の津波の高さの「16m」の位置が判る様に整備をする。

公園には「鎮魂の森」ゾーンなど、木々・芝を配置し、町民・観光客が散策できるよう回遊性をふんだんに生かした、復興のシンボルになるよう考慮し設計をした。周辺には東・西に駐車場も配置される。

町からの提案に志津川まちづくり協議会では、委員からは UR 職員に活発な質問が飛んでいた。



「愛の福袋」 被災地支援活動



2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で南三陸町民が広島への避難疎開し、それが広島の新報に掲載され、報道で知った地域の方の支援の輪が大きくなり、南三陸町への支援活動へとつながった。

今回で 3 回目と聞く、岩手県大船渡まで活動範囲を広げ、南三陸町を拠点として 2 班に分かれ有効に時間を活用し、被災された皆さんの仮設を訪れ、「愛の福袋」を届けた。今回配る福袋は 300 個を越え、中身は多くの企業の協力と個人の皆さんから集めたものを、色々と袋に入れ、その中には被災者への心温かいメッセージが添えられていた。

「父母の愛によって生まれ、愛によって育てられ、愛によって生き、愛を残していく、それが人生の最高の目的です。一日も早い復興を願っています。応援しています。」

山口県の森さんが言葉をつづってくれていた。



仮設の方々への支援の声掛け

17 日から 2 泊 3 日の予定の今回の支援には、広島を中心に山口・福岡・静岡など 24 名の方々が来町してくれた。民生委員の方もおられ被災地の子供たちの事を心配し、「何かできないか」と聞き取り、地元

の活動につなげたいと話す。数班に離れての来町のため集まる時間もばらばらで、第一陣は「さんさん商店街のモアイ像の前」の待ち合わせとした。

17 日は一日中活動予定で、午前中は志津川・歌津地区の 2 班に分かれ、仮設を一軒ずつ「ボランティアで来まして」と声を掛けて、2 人 1 組で福袋を手を持って歩く。留守の仮設も多く、午前中とあり留守番のおばあさん方が多かった。

傘を差しながら、10 分、15 分と被災し仮設で暮らす人たちの声に、話に耳を傾けていた。「お体は大丈夫ですか？」の声に気丈にも「多くの皆さんの支援に助けられています。」と、普段は訪れる来客も少ない中で、支援の方々との話もついつい長くなっていった。

午前中の視察として「のぞみ福祉作業所」を

廻った。約 20 名の入所者が分担し、作業に励んでいた。畠山施設長さんの話に、全国の福祉作業所の支援をもらい、活動指導支援として 1 週間ごとに全国から再開の準備の応援をいただいたと言う。

現在は作業活動の主体となる「紙すき」のポスターカードやモアイの印刷の紙製品の制作に一生懸命だった。牛乳パックを再利用する紙すきは、全国から送ってもらい周囲のシーラーをはがし破砕し特殊な液体で溶かし、紙すきをしてプレス、乾燥、シール、印刷などで製品に仕上げていた。『パークのシーラーはがしは「コツ」がいるんですよ』と作業の指導員は話す。また、制作する機材も全国から支援・機械造りに応援をもらったという。訪れた支援の方々は作業をする通所生一人一人に寄り添い話す姿に、支援活動代表はこれが私たちの活動ですと語る。販路拡大が課題と話す。

午後からは戸倉地区の二つの仮設を廻った後で、新築再建された戸倉小学校を児童が下校した後で訪れ、木造造りの多くの機能を配備した学校校舎・体育館施設を見学させていただいた。図書館に於いては、支援者のお子さんが通う「下関市立垢田小学校」の 5・



のぞみ福祉作業所での入所生との交流



富山の方よりチューリップの球根寄贈



キックボクシングで南三陸町出身の 工藤勇樹チャンピオン誕生！

「キックボクシング蹴拳 27」が東京ディファ有明で 10 月 25 日開催され、南三陸町空手道連盟出身で現 WPMF 日本ヘビー級 2 位の工藤勇樹選手が、ヘビー級王者決定戦のメインイベントに出場し、韓国の CHOI JAE WOON 選手と対戦した。大勢のファンの声援をうけ激しい打ち合いの結果、5 R 1 分 30 秒で見事 KO 勝利し、ヘビー級タイトルを獲得した。戦績は 31 戦 19 勝(12 KO) 10 敗 2 分で、南三陸町空手道出身で太刀風(高橋誠一)選手に次ぐ 2 人目のチャンピオンが誕生した。工藤選手が長くチャンピオンベルトを保持できますよう皆さん応援よろしくお願いします。

(入谷 及川さん寄稿)

6 年生 34 人から、「同じ小学生を応援したい」と、メッセージ写真と手紙が贈られた。また、富山県のメンバーからは「チューリップの球根」が山内校長先生に、山口県の田中さんから手渡された。生徒全員にも「愛の福袋」を準備し、学業の慌たしい活動の中で、「何かのお役に立てて下さい」と言葉を添え贈られた。

夕食後の午後 7 時からは、民宿「明神崎荘」を会場に、志津川・歌津の仮設で暮らす 5 人の方々と、班に別れて話し合いの場を持った。生活で困っている事や何か出来る事があればと聞き取り、今後の支援に何が求められているかを話し合った。

「愛の福袋支援活動」は、今後も末永い支援と家族のような繋がりを持ち、「故郷に家庭に帰って来る」との想いを、復興後も家族のような御付き合いで、「寄り添い・見守りたい」が、会の考えと山下代表は話してくれた。

(支援者支援の会 千葉)



下関市立垢田小学校 5・6 年生のメッセージを戸倉へ

長野県飯島町の 宮澤さんありがとう

今年も長野県飯島町の宮澤さんから素晴らしい「ネギ」が届いた。50 本入り 10 袋 500 本で、夏のジャガイモに続き秋のネギと、物資支援も 3 年目を迎えた。

これまで配られていない仮設へと、沼田地区に 3 袋を届け、次に横山駅裏仮設に 3 袋、あと 4 袋は登米市南方 2 期仮設に届けた。自治会長さんの入居者への配布には感謝を申し上げたい。一世帯 2 本と少ないが、頂いてくれた人は「1 本でも嬉しい」との、嬉しい声を聞いた。

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年)

～ 地元報道より ～

8月の出来事

◇南三陸町は高速輸送システム(BRT)で運行継続の方針を示している。町民との意見交換として産業団体(商工会・漁協・農協・観光協会など)と懇談会を代表者15人と開催する(5日)

◇南三陸町は地方創生・官民連携推進室長に、財務省出向職員の檀浦氏(長崎県出身、37才)を招いた。国から迎えるのは合併後初めてで、佐藤町長はパイプ役としてその手腕を期待している。

◆東部相談所気仙沼支所では26年度の「児童虐待」が22年の被災前と比べ1.7倍に急増している。7割以上が小学校被害との報告がされた。

◆第64回気仙沼みなとまつりの「はまらいんや踊り」に3千人が参加した。

◇志津川高校生徒会(295人)で防災庁舎の県有化へのアンケートを実施した。93.6%(276人)からの回答があり、35.5%の賛成、18.3%の反対があり、46.2%の半数近くは難しい問題と「どちらとも言えない」との回答だった。今回の実施は高校生も深い関心がある事を知ってもらう為と話している。

◇南三陸町でBRTに対する産業団体の懇談会が5日あり、BRTの町の受け入れに異論は出なかった。

◇5日南三陸町で今年度最高の「36.6度」を記録した。

◇南三陸町の防災集団移転整備事業は、20地区28団地計841戸を整備する。その内7割が住宅着工となり、8割が町外建設業者が受注している。

◇南三陸町で震災後初めて熱中症による死者がでた。80代の女性で自宅で扇風機を使っていて、6日午前10時30分ごろ、意識を失い救急車で運ばれ死亡した。

◇南三陸町の次期総合計画の骨子案をまとめた。復興や人口減少を見据えて、交流・定住人口の増加を重点に産業のブランド化を進めるなど、年内の策定を目指す。

◆気仙沼市の「気仙沼市観光コンベンション協会」と「本吉観光協会」は28年4月の合併へ。

◆本吉・気仙沼地区で、携帯のショートメールでの架空請求の事案が発生している。警察署では「不審メールは無視して」と呼び掛けている。

◇南三陸町佐藤町長は「鉄道は現実的に不可能であり、あり得ない。」と話す。一部の議員は沿線自治体と要望活動を継続を求めたが、佐藤町長は否定的な考えを示す。

◇南三陸町は歌津館浜仮設の15戸のうち、空き室となった5戸を移転しホームし、町営住宅として若者定住策として活用する。家賃は2Kが2万4千円、3Kが3万2千円で、平成30年3月31日までは半額措置をとる。

◇JA宮城は30年に再編成される。南三陸は「北東部」として、登米・石巻・栗原の3つの農協が合併する。「中西部」は古川(大崎)・みどりの(加美町)などで、「中南部」は仙台・名取・岩沼などの合併を予定している。

◆気仙沼署管内の飲酒運転が昨年の1.5倍となっている。8月13日まで15人が検挙され、飲酒運転は「原則逮捕」で厳しく対応をしていくと話す。

◇南三陸町の町民の運動と憩いの場として親しまれた「松原公園」の復旧にあたり、八幡川沿いの志津川助作地区の3.5haに野球場・陸上公認トラックの整備に着手する。29年7月の供用を開始をめざす。

◇歌津地区の交流野球大会が15日開催された。昨年より1チーム多い5チームで地域住民と帰省客も参加しプレーを楽しんだ。決勝は石泉と泊浜で、6対5の接戦の末、石泉が優勝した。

◆気仙沼市災害公営住宅の入居者の家賃収納率が88%で、滞納額が100万円ほどになっている。◇歌津地総合支所の再建が「平成の森敷地内」に鉄骨平屋建てで延べ床面積1360㎡で整備さ

れる。9月から造成工事に入り29年4月の供用を目指す。役場施設・診察室・調理室を配置する。◇南三陸町にジャイカ(独立行政法人国際協力機構)の8か国から15人が来町し、復興状況などを視察した。

◆気仙沼市の障害者施設が足りない。入所者の受け入れ、入所者の年齢の上限がなく、退所者がいないことがあげられる。仕事を始めた保護者の増加もその要因に上げられる。募る保護者の不安と心配の中で、満室により新規利用が困難になっている。

◇南三陸町は国の教育制度改革にあたり、「教育施策大綱」を策定した。基本理念として「ふるさと南三陸町を愛し、志を掲げ未来を創造する力を持った人を育てる」をかかげ防災教育に重点を置くとした。

◇南三陸町にボランティアとして来町した埼玉県さいたま市出身の二人が神割崎で結婚式を挙げた。神夏磯さんご夫妻に、被災支援のお礼にと住民が企画した。お二人は「南三陸町を第二の古里」と今後も応援をしたいと話す。

◆気仙沼市税金納付のコンビニ利用は26年度より2万件多い約11万7千件を数え、額も1億5千万円多い10億1400万円となった。2年間で利便性が浸透した。

◇「リアス・ハイウェイ女性の集い」の結成当時の会員が交流を深めた。10名の会員に前気仙沼鈴木市長、元本吉町千葉町長、元歌津牧野町長、元志津川阿部町長に小野寺五典代議士も駆け付け、当時の活動や今後の被災地の事を語り合い親睦を深めた。

◆気仙沼魚市場に24日、大型サンマ漁船が入港した。一番船は県内初で38トンの水揚げした。◇南三陸町「戦没者追悼式」が22日に総合体育館で開催された。約150人が集まり「語り続けていく事」で不戦を誓った。

◇南三陸町の「総合ケアセンター」と「新病院」の工事が最終段階をむかえ、年内開院の見通しとなった。総工費52億円で、その内22億円は台湾赤十字組織の寄付金が含まれている。

◇南三陸町歌津の「柁沢公営住宅」で、雨水が室内や床下にたまり、1階部分で畳にカビが発生したりして使えないと、町に改善を求めている。入居者は「まさかこんなことになるとは」と困惑している。

◇南三陸町に県の企画で、全国の人事担当者が

集まった。各都道府県や市町村100自治体から160名が来町視察し、町では職員派遣に協力と呼び掛けた。

◇パソコン全国大会でアビキッズ志津川教室の2人が優勝した。プレゼンテーション部門の高校の部で阿部真知さん(志津川高校)と、イラスト部門5・6年生の部で山内朱里(入谷6年)が受賞し、他8名が入賞をはたした。

◇南三陸町の佐藤町長は歌津柁沢のカビ被害と第一号の入谷公営の水道トラブルなど、入居者に陳謝をした。25日、原因調査に町と業者が入った。

◇町の「総合戦略推進会議」で、「UIJターナーの支援に重点を置く」との町の基本方針を了承した。

◇志津川高校の「旭ヶ浦祭2015」が9月5日から開催され、「青春の1ページを描こう」として、音楽部の演奏や文化部の展示が行われた。4日にはさんさん商店街から高校まで、志高恒例の「仮装行列」が行われる予定。

◇志津川町内に残る阿部長商店の「高野会館」が震災遺構としての保存検討、解体が専門家の視察により協力を約束した。当時、町の老人クラブ発表会があり、327人が4階にとどまり、町民の命を守った施設として保存が求められていた。

◇宮城県は南三陸町の「防災庁舎」の遺構保存に向け予算化をする。9月定例会に調査費として「1841万円」を計上し、議決を経て現地調査・補修工事の内容を決める方針で進められている。

◆気仙沼市の「本吉響高校」は26日加美町で開催された県学校家畜審査協議会において、初出場団体優勝し、個人でも全員が入賞し、内2人が東北大会への出場を決めた。農業高校が約10校参加した。

◇9月から全国一斉に国勢調査が始まり、今回からネット回答が可能となった。

◆宮城県漁協気仙沼支部大島出張所で津波をかぶった貴重資料の修復作業が終った。資料は110年以上も前の大島や国内の沿岸漁業の歴史資料として全国的にも珍しく、大島漁協は書庫を建設し資料を保存する。

◇南三陸町にデザイン塾が立ち上げられる。南三陸杉の活用、売り込みの対策として、町内の林業家が「南三陸杉」のブランド化を進め、国内の若手職人・デザイナーを公募し協力を得ながら家具や東京五輪関連商品の開発に取り組む。発足を記念して28日にセミナーが開催された。

1年間ありがとうございました

喪中

喪中につき、年末年始の挨拶を
遠慮申し上げます
三月に父〇〇が八十八才にて永眠いたしました
ここに本年中に賜りましたご厚情を深謝致しますと共に
明年も変わらぬご交誼のほどお願い申し上げます
平成二十七年十二月
千九百八十六〇〇〇〇
宮城県本吉郡南三陸町〇〇〇〇〇〇
電話 〇二二六〇〇〇〇〇〇番



謹賀新年

旧年中は格別のご厚情を賜り誠にありがとうございました
心より感謝申し上げます
本年も何卒よろしくお預け申し上げます
平成二十八年 元旦
千九百八十六〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇
電話 〇二二六〇〇〇〇〇〇番

喪中はがきは電話注文が便利です。年賀ハガキもその他たくさん見本(黒1色・カラー等)がございます。今年はオリジナルで志津川湾荒島のカラー写真はいかがでしょうか。ご用命をおまちしております。

TEL 4 6 - 3 0 6 9

千葉印刷店主